

負けない トレーダー 7つの心得

FXで負ける心理パターンと対策



ロンドンFX
松崎美子

最新！2018年10月～

2019年相場予想

ドルとユーロはこう動く

目次

第1章 初心者が陥りやすい7つの失敗パターンと対処法

1. ポジポジ病(オーバートレード)から抜け出せない
2. 損切りができない
3. コピートレードをしてしまう
4. 負けたら熱くなる
5. ポジションのサイズが大きすぎる
6. ポジションが気になって眠れない
7. 人の意見に惑わされる

第2章 2018年10月～2019年の最新相場予想

1. 2018年末までの相場予想
2. 2019年の相場予想

第3章 おすすめの情報収集方法と質の高い情報源の見極め方

1. 私の情報収集方法
2. 質のよい情報とは？
3. おすすめのTwitterアカウント

はじめまして！ 私は【[ロンドンFX](http://londonfx.blog102.fc2.com/) (<http://londonfx.blog102.fc2.com/>)】
というFX専門のブログを運営している松崎美子と申します。

私が投資をする際、特にFX取引をするときに気をつけている点について
主にメンタルの側面からお伝えしようと思います。

FXに限らず、株などの投資を始めると、普通の日常生活では直面しない
「もう一人の自分」と向き合うことがあります。例えば、ポジションがうまく
行かない時の心臓の高鳴りや、損失を抱えた時のパニックなど、自分で
も驚くような場面が出てきます。そういう局面でどういう対処をすれば冷静
に取引をすることができるのかについてお話ししたいと思います。

初心者が陥りやすい 7つの失敗パターンと 対処法



私は銀行のディーリング・ルームに勤務した後、自宅でFX取引を始めました。たった一人、PCの前に座り取引をしながらメンタルに関わる問題で悩むこともありました。

FX取引での「メンタル」の問題は多岐に渡っていますが、ここでは以下の点についてお話ししようと思っています。

1. ポジポジ病(オーバートレード)から抜け出せない
2. 損切りができない
3. コピートレードをしてしまう
4. 負けたら熱くなる
5. ポジションのサイズが大きすぎる
6. ポジションが気になって眠れない
7. 人の意見に惑わされる

1. ポジポジ病(オーバートレード)

まず、問題となるのは、「ポジポジ病」。ポジションを常に持っていないと落ち着かない、不用意にトレードを繰り返してしまう…これは大怪我の元だと私は考えています。

ポジポジ病になる方は、とにかく利益を上げたいという欲求が高いからではないでしょうか？しかし、「ポジションを持ったら、儲かる可能性は負ける可能性と同じだけある」ことに気付いていない人もいます。



私が東京へ一時帰国した時に開催したFX勉強会に参加された個人投資家の男性。この方は、朝起きると「とりあえず」ポジションを仕込むそうです。「とりあえず」の根拠のない取引を繰り返すことは、自分のキャパシティを超えやすく危険です。

ポジポジ病の場合に気をつける点は、デモ口座でない限り、貴方が持ったポジションが間違っていれば、口座残高が減ります。つまり、FX取引の「失敗」は有料であるという事実です。貴方がなんとな〜く持ったポジションが次から次へと「失敗」した場合、口座残高が減るだけでなく、自分自身の自信も吹き飛んでしまうので、負の連鎖になりかねません。

私はポジポジ病の経験がありません。その逆に、考えすぎて取引チャンスを逃してしまう傾向があります。たぶん潜在意識で、口座残高を減らしたくないと考えている臆病者なのです。

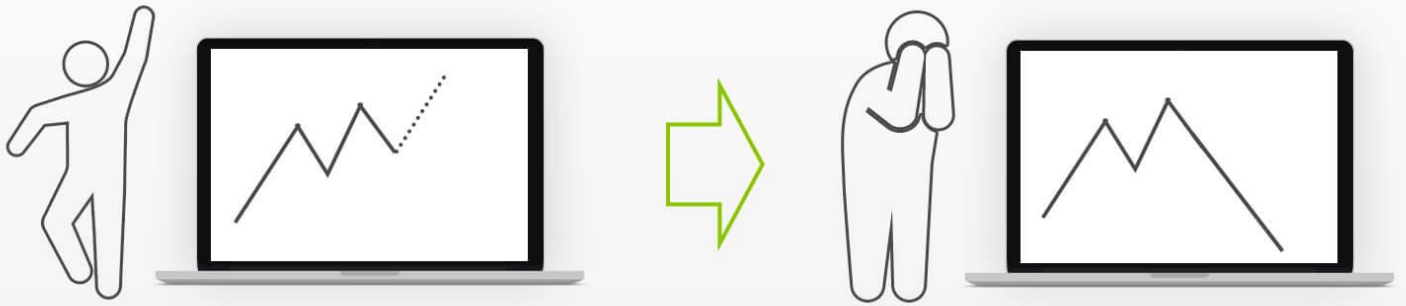
私のようにトレード・チャンスを逃してしまう人、これは見方を変えれば「お金を失うよりマシ」と思われがちですが、チャンスを逃すということは本来許されるべきことではありません。2〜3回続けて逃すと、自分が信じられなくなり、こちらも負の連鎖になりかねません。

つまり、過不足なくポジションを持つためには、自分のキャパシティとトレード・チャンスの見極めが肝要になってくるのです。

2. 損切りできない

銀行を辞めて自宅からFX取引をはじめたばかりの頃に、私も経験した「損切りできない病」。これは、自分で取引に対する明確なルール設定ができていない、またはそのルールが守れていないことが原因です。

損切りができない



“いつか戻ってくるだろう”

「午後になれば、戻ってくるだろう。」「損切り貧乏になりたくない。」「いつも自分が損切りすると、相場が元に戻り、もう1日だけ我慢していれば利益が出ていることばかり。損切りしなければよかったと後悔するに決まっているから、今回に限って損切りは見送ろう...」こんな屁理屈を並べて自分を納得させていました。こういう心理的な葛藤は、誰でも経験することだと思います。

しかし、私はその後、損切りを入れる癖をつけました。そのきっかけとなったのは、このような「お祈り」をしている自分が情けなくなってきたことと、損失が確定するまでの間、常に心臓がバクバクしてストレスが溜まってきたことでした。

それ以来、私が徹底していることは、

- ・具体的な損切りレベルが設定できない取引は、見送る
- ・最初に決めた損切りは、「絶対に」ずらさない
- ・損切りが3回続いたら、その週は取引しない
- ・損切りがついても、自分を責めない

プロのトレーダーでも、損切りを何度も経験します。著名なヘッジファンドマネージャーであるジョージ・ソロスさんでさえ、2016年のトランプ相場の際に、株取引で10億ドル(約1,100億円)の損失を出しました。あのソロスさんでさえ、読み間違えるのが相場というものです。

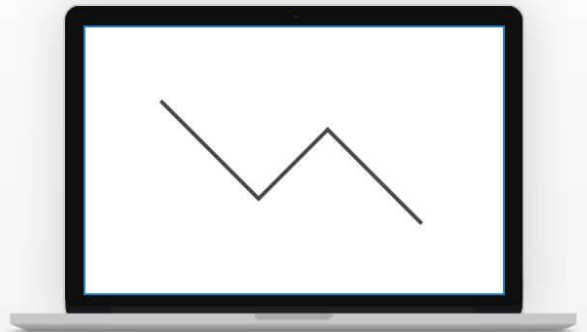
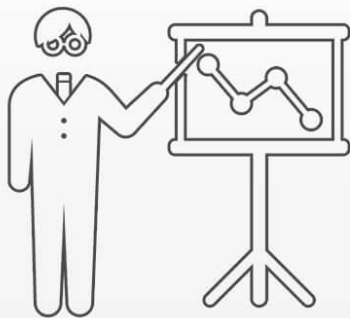
損切りを徹底するようになってよかったことは、朝起きて自分の取引口座の残高をチェックするときに、背筋が凍るような嫌なサプライズがなくなったことでした。この世界は、どんな屁理屈をつけようが、**口座に残高がなくなれば、それで終わりです。**

退場しないためにも、自分で明確なルールを定め、損失は確定する癖をつけましょう。

3. コピートレードをしてしまう

自分で研究した取引手法ではなく、他人の手法をそのままコピートレードしていると、損切りのタイミングがわからないというジレンマに陥ることがあります。この手法は厳禁です。冷静に考えれば、コピーしているトレーダーと自分とでは許容範囲も時間軸も何もかも違うのですから、必ずどこかの時点で行き詰まります。

コピートレードはダメ



“楽してお金を稼ぎたい”

FXに限らず投資は自分で勉強してなんぼの世界だと考えています。一攫千金を夢見るのも自由です。しかし、勉強せずに人のふんどしで相撲を取っている限り、限界が見えてくるのは時間の問題でしょう。

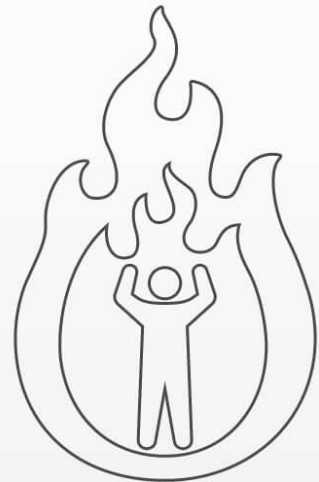
そのため、きつい言い方になりますが、コピートレードをやるくらいなら、トレードはやめてください！

4. 負けたら熱くなる

負けるとつい熱くなってむきになって取引してしまう。たぶん熱くなってしまふ人は、自分が立てたシナリオ通りにマーケットが動かないと、「こんな筈じゃなかった。次は絶対に今回の損を取り戻してやる！」と思うのでしょう。しかしこれは**根拠のない過信**です。

負けたら熱くなる

10万円の損失



“次は絶対に今回の損を取り戻してやる”

私の場合、負けたら熱くならず、逆に落ち込みます。這い上がってこれないほど、落ち込んだことも、過去にありました。

今でこそ、負けようが勝とうが常に平常心でいられるようになりましたが、負けて落ち込んでいた当時は、「ほらね、やっぱり思った通りに負けたわ、こうなると思ってた...」と強がりを言い、「**負けるに決まっている**」というネガティブな思い込みでその状況を自ら「引き寄せ」ていたのです。

根拠のない過信も、ネガティブな思い込みも捨て、常に平常心を保てるようにしましょう。

5. ポジションのサイズが大きすぎる

ポジションのサイズの見極めは難しく、取引に慣れてくると自分の身の丈に合わないような大きなポジションを取りがちです。

ポジションのサイズが大きすぎる



“身の丈に合わないサイズで取引してしまった”

私も経験があります。あまりに膨らませすぎて、心臓がバクバクして夜眠れなくなったこともありました。結局、自分の身の丈に合わないポジション・サイズでの取引は、長く続きませんでした。ポジションが大きすぎると、口座残高の減りも極端で、精神がやられそうになったからです。そして、私は**口座残高が減れば、すぐに追徴金を入金する**ということは、絶対にやらない！と決めていたので、それを守るためには、ポジション・サイズを減らす選択しかなかったのです。

自分の経験から申しますと、「ちょっと少ないかな？」と思うくらいのポジションが一番心地よいです。そして、そもそもFXをやっている理由が金銭的なものであれば、毎月いくら欲しいのかを明確にして、一攫千金を夢見ないことです。

大切なことは、**マーケットで生き残ること**です。

6. ポジションが気になって眠れない

これも自分の身の丈に合った取引ができていないときに陥るものです。

ポジションが気になって眠れない

眠れない！！



“寝ている間の損失が怖い”

私はポジションのサイズを大きくしすぎていたときに、マーケットの動きが気になり、心臓がバクバクして眠れなくなりました。その後、身の丈にあったポジションに変更してからは、きちんと眠れています。

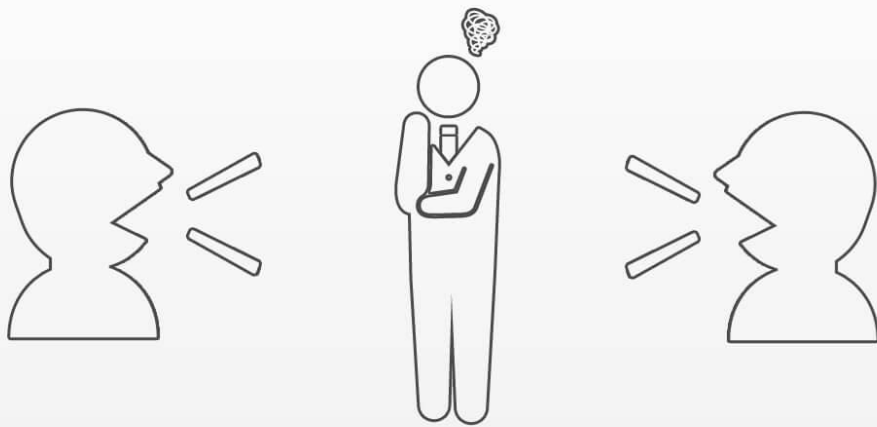
FXを始めたばかりの頃は、実際のお金が動くので、ポジションを持った瞬間から手に汗をかきドキドキしました。しかし、時間が経ち経験を積み、このドキドキは収まります。

ポジポジ病のところでも申し上げましたが、自分が取ったポジションが大きすぎず身の丈に合うもので、取引内容にきちんとした根拠があり、利食いと損切りのレベルを入力していれば、心配する必要はありません。

7. 人の意見に惑わされる

取引についての人の意見は気になるものですが、大前提として自分の戦略（戦略）をつくるのは、他人ではなく自分自身ということを肝に銘じましょう。

人の意見に惑わされる



“自分は相場を読み間違えていないだろうか”

私は同業の友人から、相場観を聞きません。一度聞いてしまうと、他人の意見に惑わされるからです。

その代わり、自分で考える努力は怠りません。私が常に心がけているのは、マーケットに関係するありとあらゆる情報を読み、自分なりのシナリオを描くことです。具体的には、Twitterで気になるヘッドラインを見つけたら、そこに出ている記事をプリントし、まとめて読みます。多いときは、1日12時間以上読んでいます 笑

気になることがあれば、寝る時間を削ってでも読みます。これだけ徹底すると、他人の意見やポジションが気にならなくなります。結果、もちろん勝つこともあれば負けることもあります。が、**間違い(負け)は、成功への近道**です♪

いろいろ書きましたが、口座に残高が残っていなければ生き残れない世界です。そこをきちんと理解して、焦らずじっくりと自分の頭で考えながら取り組んでいきたいと思います。日本に帰って個人投資家の皆さんとお話しして、いつも気になるのが、「短期で結果を出そうとしすぎる」ことです。

私はマーケットの値動き(例えば、ドル円ならドル円だけ)を1年ずっと見続ける。それくらいの時間を使って、まずマーケットとは何か？それを自分なりに感じることをお勧めしています。ずっとマーケットを見ていると、「いつもこの辺で止まるな。ここは何なんだろう？」とか、「過去2カ月は毎日のプライスの動きが早かったのに、今月はあまり大きく動かないな。どうしてだろう？」とかいう疑問が生まれてきます。いつも止まるレベルは、もしかしたら移動平均線が通るレベルだったのかもしれませんが。動きのスピードが違うのは、季節的要因だったり、ファンダメンタルズの影響かもしれません。

このような亀の歩みでも、この1年の間にいくつもの気づきや疑問が生まれてくることでしょう。それに対する答えを、次の2年目に探していけばよいのです。その答え探しが、半年で終わったのであれば、残りの半年で「将来のプライスの動きを予想する練習」をしてもよいと思います。

チャートの右側は常に白紙です。その白紙に自分のイメージを乗せてみる。たぶん、そのイメージの半分以上が、間違っているのかもしれませんが。全勝はあり得ませんので、それでよいのです。大事なことは、目の前にある白紙に乗せた自分のイメージの「根拠」は、何か？それをはっきりさせることです。きっとこの「根拠」を知ることが、あなたの手法を見つける手がかりになると、私は信じて疑いません。

繰り返しになりますが、ポジションを取った途端、心臓がバクバクするような自分の身の丈に合わないポジションは取らない。損切りの基準が自分で設定できない取引は、しない。そして、FXでの間違いは有料ですので、根拠のないポジションは取らない。他人のコピートレードはやめ、時間がかかっても構わないので、自分のストラテジーが作れるようになってから取引を始める。以上をきちんと守り、とにかく生き残ることを最優先にしてFXに取り組んでいただきたいと思います。

2018年10月～2019年の 最新相場予想



この原稿は2018年8月末に執筆しています。そのため、ここでの相場観は、あくまでも「2018年8月時点」での「年末までの予想」、そして「2019年予想」となる点、ご了承ください。

年末までの注意点は、新興国通貨危機がどこまで拡大し、深刻化するか？の一言に尽きると思います。

■ 2018年末までの相場予想

・ドル高を予想

2018年は、新興国通貨の下落が続く限りは、ドルの一人勝ちが続くと考えています。

アルゼンチンから始まった新興国通貨売りが、トルコ、南アフリカ、そしてとうとうインドやインドネシアまで拡大してきました。この新興国通貨売りと同時に進行しているのが、ドル高です。

このドル高の背景には、新興国が抱える問題に対する市場不安が反映されていることが考えられます。例を挙げますと、

- ・アルゼンチン = 財政再建策の有効性
- ・トルコ = 通貨安や民間銀行の外貨借り換えに対し、トルコ中銀の対応が後手に回る不安の先取り
- ・ブラジル = 10月に控える総選挙の行方
- ・南アフリカ = リセッションのリスクと、ラマポーザ大統領が表明した土地改革計画

などとなります。

国名	シェア (%)
アメリカ	17.41
日本	6.46
中国	6.39
ドイツ	5.59
イギリス	4.23
フランス	4.23
イタリア	3.16
インド	2.75
ロシア	2.71
ブラジル	2.32
カナダ	2.31

出典： 日本財務省 IMFの概要

(https://www.mof.go.jp/international_policy/imf/gaiyou.htm)

■ 2019年の相場予想

次は2019年の予想ですが、大きく動くと予想されるのは、ドル・ユーロ・ポンドを考えています。ポンドに関しては、Brexit(英国のEU離脱)次第ですので、ここでは割愛し、ドルとユーロについて自分の考えを書いてみたいと思います。

■ 先高観がやや薄れてきたドル相場

順調な雇用市場と景気拡大路線で、利上げが繰り返されてきたアメリカ。しかし、ここにきてセンチメントが変わってきたように感じます。もし、新興国通貨危機がほどなく収束した場合について考えてみましょう。

利上げ打ち止め感

2018年8月24日、米ジャクソンホール経済シンポジウムで講演したパウエルFRB議長は、今年のドル高の牽引役である利上げ期待に水を差す発言をしました。これを受け、一気にアメリカの利上げ打ち止め感が出てきました。その発言とは、

「最近、インフレ率が2%近くまで上昇してきているが、今後インフレ率が2%を越えて大きく上昇する兆候は、現時点では我々には見えない。そのため、今のところ(インフレが急上昇するリスクは少ないので)政策金利も急上昇するリスクは、小さいままである。」

どういうからくりで「利上げ打ち止め感」という発想になるかと言え、

2015年12月から今年6月まで、計7回のFF金利引き上げが実施

↓

2018年8月時点のFF金利は、1.75～2%

↓

2018年末に向け、9月と12月それぞれのFOMCで利上げが予想されている。

もし2回の利上げが実施されれば、年末時点のFF金利レベルは、2.25～2.50%

↓

最新のFOMC経済予測(2018年6月)では、アメリカのニュートラル金利**水準は「2.875%」

↓

2018年末で2.25～2.50%となれば、2019年の利上げは多くて2回だけ？

FOMC	6月予想	利上げ回数
2018年	2.375%	計4回
2019年	3.125%	3回
2020年	3.375%	1回
長期	2.875%	

ニュートラル金利

FOMC経済予測(2018年6月13日)

(<https://www.federalreserve.gov/monetarypolicy/files/fomcprojtabl20180613.pdf>)

マーケットでは、アメリカの利上げは今後何度も続くという見方をしておりましたが、実は「あと何回？」と数えるほど限定的となるため、一気に利上げ打ち止め感が高まりました。

****ニュートラル金利とは？**

FOMCでは3・6・9・12月にマクロ経済予想をまとめた*Economic Projections*（スタッフ予想）が発表されます。そこでは、FOMC参加メンバーによる将来のFF金利見通し「ドットチャート」が載っており、その中の「長期的な政策金利見通し（中央値）」がニュートラル金利（あるいは、長期のFFレートの均衡水準とも呼ばれる）を表わしています。この金利は「インフレ率目標＋中立金利」で計算できます。

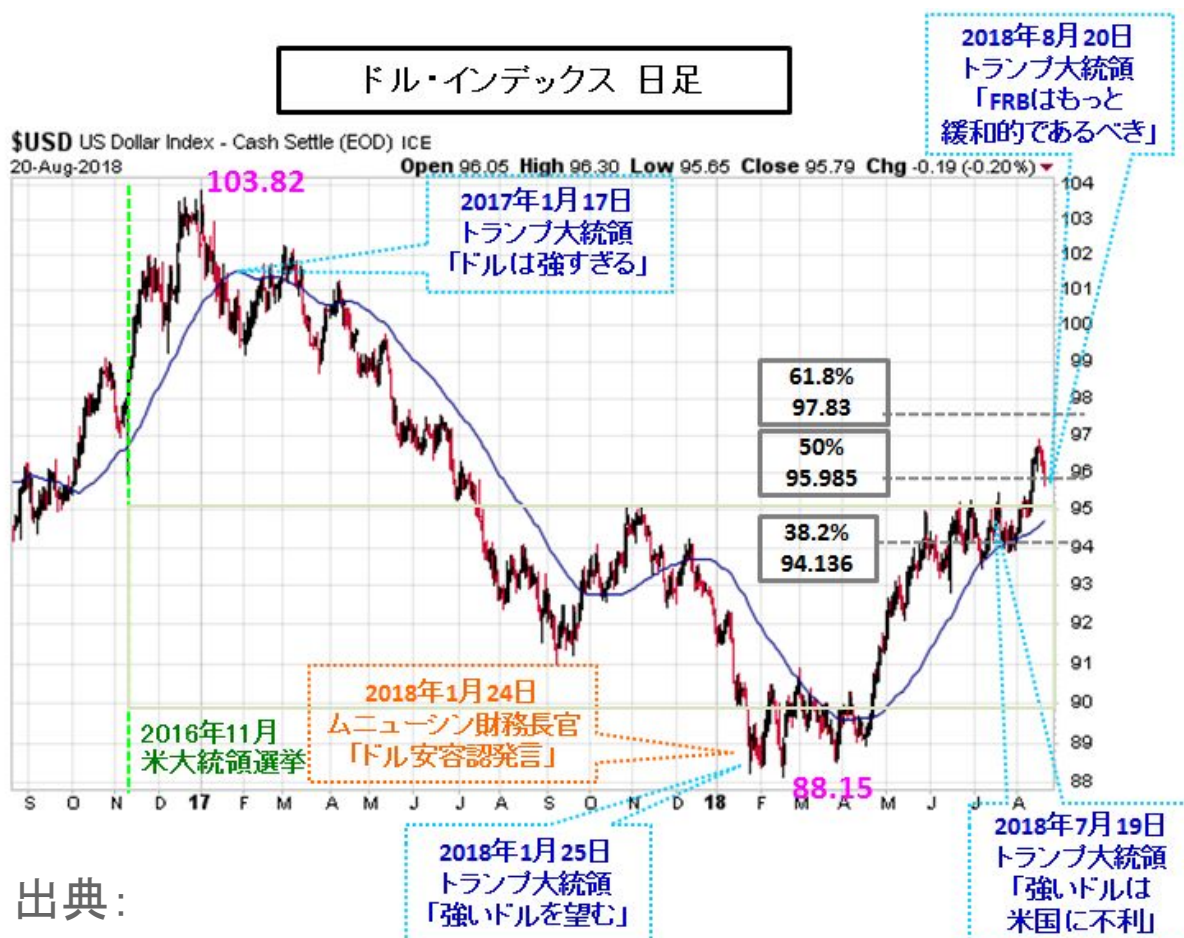
■ トランプ大統領の本音はどこ？

トランプ氏がアメリカ大統領として就任して以来、ドルの価値について何度も言及しています。ドル・インデックスのチャートを見ると、2016年11月に実施された大統領選終了後すぐにドルは高値を付けました。このとき大統領は「ドルは強すぎる」と発言し、ドルは急落しました。しかし2018年に入ると、発言内容を180度変え、「強いドルを望む」と語っています。この発言を受けその後ドルは上昇に転じましたが、7月には「強いドルは米国に不利」と、ドル高けん制発言をしています。

大統領の発言をまとめると、

- ・2017年1月 ドル・インデックス 101/102台で、「ドルは強すぎる」
- ・2018年1月 ドル・インデックス 88台で、「強いドルを望む」
- ・2018年7月 ドル・インデックス 94/95台で、「強いドルは、米国に不利」

これはあくまでも私の個人的な印象ですが、ホワイトハウスはドルが100台に乗ることは望まず、95あたりを上限としたいのではないかと。可能であれば、90-93台をコアとしてそこから±2のレンジ内で推移することを望んでいると勘ぐりたくなる発言内容だと感じました。



出典:

[Stockcharts.com](https://www.stockcharts.com)

■ ドル安への手段

もし仮にアメリカが本気でドル安を望むのであれば、手段は4つ考えられます。

- ① ドル売りの為替介入
- ② 他国の通貨安を認めない
- ③ 口先介入の強化
- ④ FEDのインフレ目標のレベルを引き上げさせる。あるいは、利上げを許可しない

ただし、以下のような状況から鑑みて、実現する可能性としては、②③に限られそうですね。

① ドル売りの為替介入

→ 国際通貨基金(IMF)の業務のひとつである「加盟国経済と金融情勢のモニター業務」の中で、「不公正な競争上の優位を得るための為替操作を行わないこと」が定められている。そのため、為替介入そのものをIMFが許すはずがなく、実現する可能性は【極めて低い】

<https://www.imf.org/External/japanese/pubs/ft/whatj.pdf>

ただし、一部の米系銀行の間では、トランプ政権がドル売り介入を是が非でも実施するのではないか？という噂が出ている模様。

② 他国の通貨安を認めない

→ 2018年3月に見直しされた米韓自由貿易協定(FTA)では、競争的な通貨切り下げを禁じる「為替条項」が導入された例がある。もしかしたら、今後は中国に対し同様の措置が取られる可能性は、【あるかもしれない】

③ 口先介入の強化

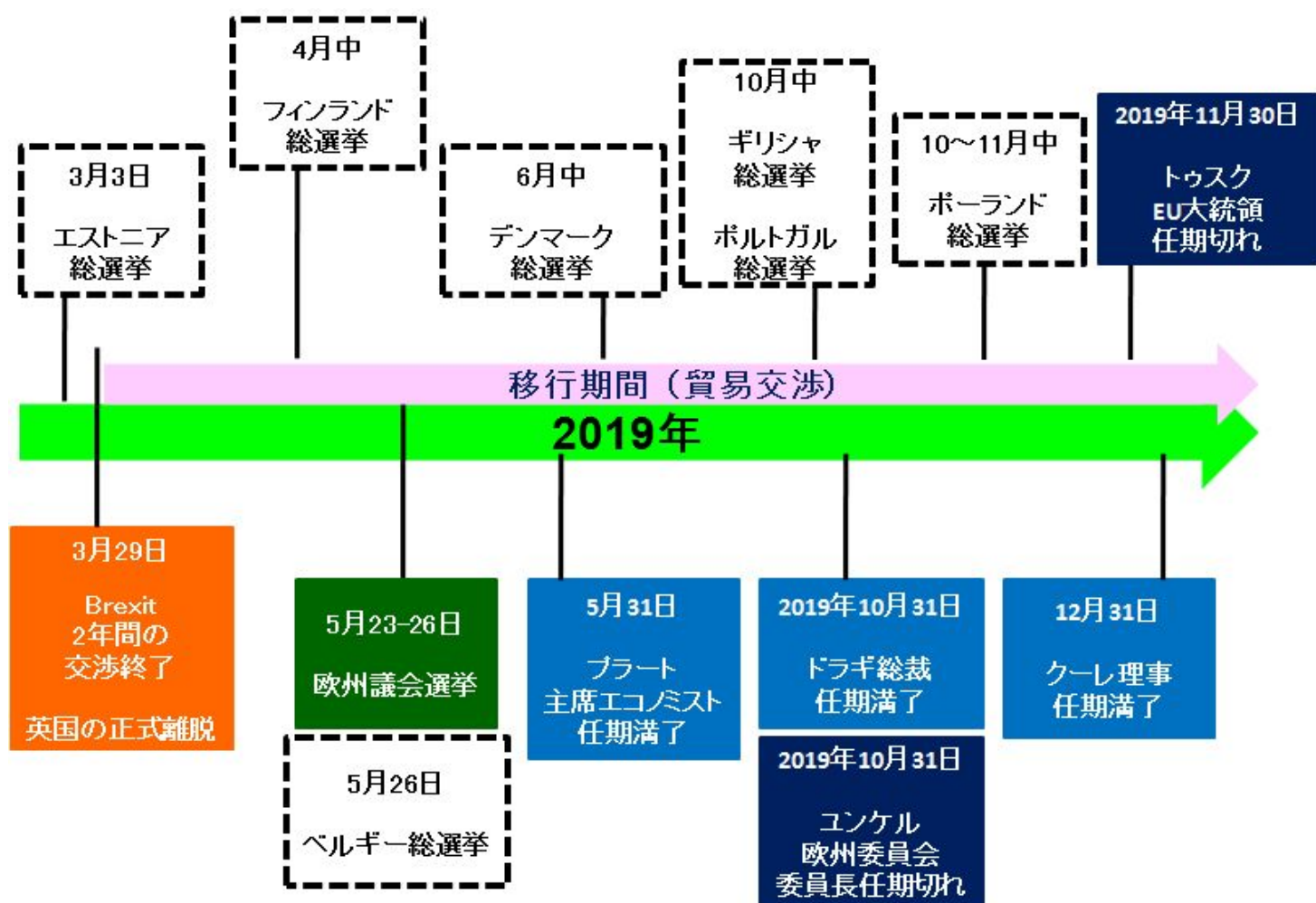
→ 既にトランプ大統領だけでなく、ムニューシン財務長官やクドロー国家経済会議(NEC)委員長が口先介入をしているため、可能性は【高い】

④ FEDのインフレ目標のレベルを引き上げさせる。あるいは、利上げを許可しない

→ 中央銀行の独立性を著しく傷つけるだけでなく、どう考えても議会の承認が取れるはずがない。つまり、実現する可能性は、【ゼロ】

・ イタリアと欧州議会選挙が鍵を握る2019年ユーロ相場

2019年のユーロの動向を決めるのは、イタリアの政治／財政問題に加え、5月に予定されている欧州議会選挙が鍵を握っていると考えています。2019年のヨーロッパでのイベントをまとめてみましたのでご参考にしてください。



イタリア問題

イタリアで懸念されるのは、主に政治（難民問題も含む）と財政問題です。

イタリアでは、2018年3月の総選挙で誕生したポピュリズム政党「5つ星運動」と、反移民／難民支持の「イタリア同盟」との連立政権が、数々の問題を引き起こしています。

両党ともに財政拡大路線を支持しているため、均衡財政を目指すEUとの衝突は絶えないと考えられます。そして、ヨーロッパを悩ませている難民／移民問題では、アフリカ大陸からの難民を一手に引き受けているイタリアの要求をEUが無視し続ける限り、EUとイタリアとの歩みよりは難しいです。

もし2019年になっても難民問題の効果的な解決策が見出されていなければ、5月23/26日に実施される欧州議会選挙では、難民問題がメインテーマとなる可能性もあり、伝統的2大政党（中道左派と中道右派）以上にポピュリズム政党の注目度が高まることにもなりかねません。実はこれはイタリアの同盟党首：サルビーニ副首相兼内務相が望む展開となり、ますます欧州分裂が危惧されます。

イタリアが抱えている問題は難民問題だけではありません。ECBの国債購入を含む量的緩和策は2018年末で終了する予定ですので、イタリア国債が投機の対象となるかもしれません。

新政権は「ユーロ離脱はない！」と言っていますし、イタリア憲法は国民投票の実施を禁止していますので、さすがにユーロそのものを揺るがす事件にはならないでしょうが、ギリシャGDPの10倍もある大国イタリアで債務危機が起きるようなことにでもなれば、マグニチュードがとてつもなく大きくなります。

イタリアの場合は、政治（難民問題も含む）と財政問題がメインですので、債務危機が起きないという保証がないのが辛いです。格付け変更などに十分な注意が必要です。

ユーロ／ドル

執筆時における2019年末の米欧政策金利差は約3%。これだけ金利差があると、ユーロ買い／ドル売りのポジションはコストがかかりすぎるため、自然とユーロの売り持ちが溜まりやすい相場となるでしょう。

FOMC	2018年 6月予想	利上げ回数	ECB	レフィ金利
2018年	2.375%	計4回	2018年	0%
2019年	3.125%	3回	2019年	0～0.1%？
2020年	3.375%	1回	2020年	
長期	2.875%			

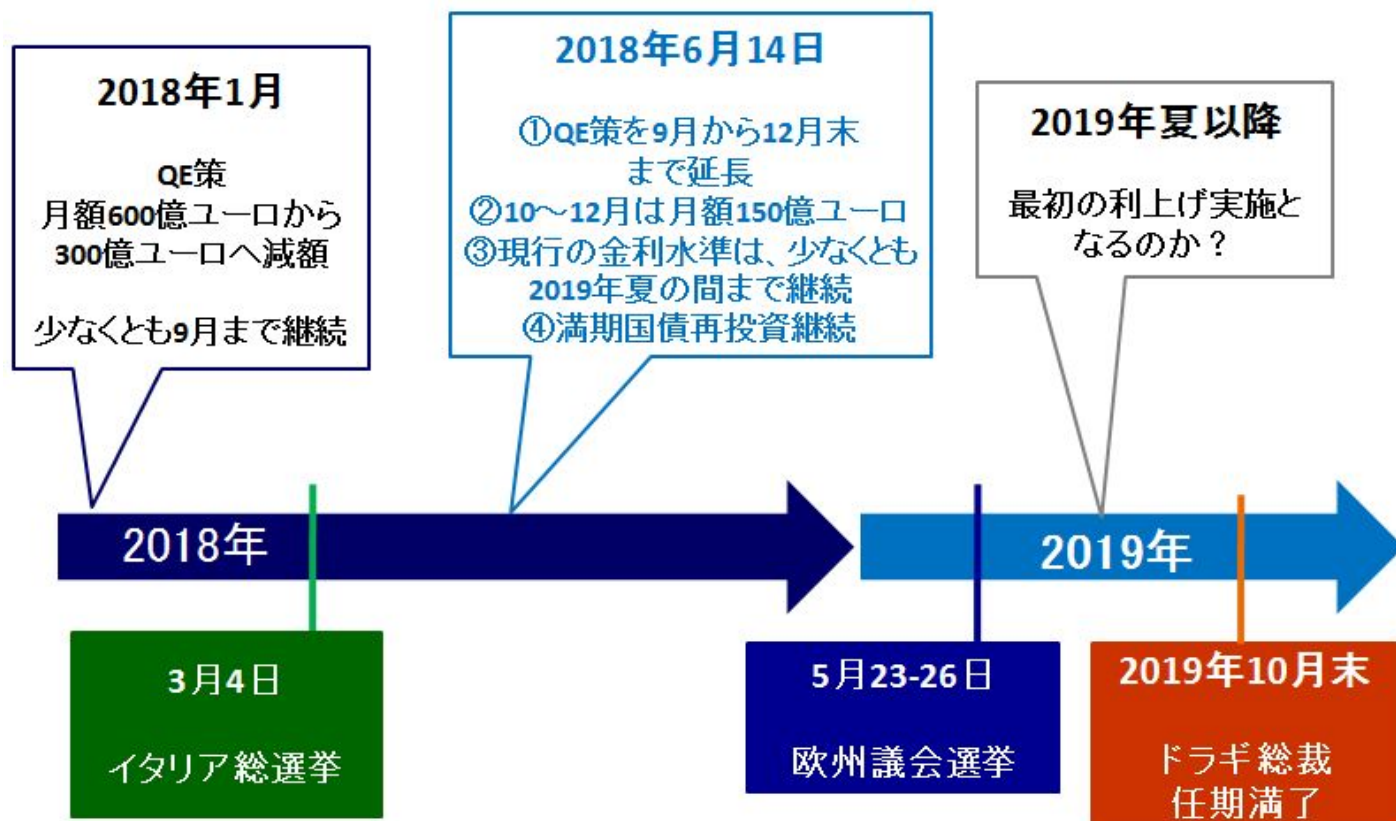
執筆時点のユーロの消費者物価指数(HICP)の最新数値は、前年比2.1%となっており、欧州中央銀行(ECB)インフレ目標を既に上回っている状態です。



チャート： 欧州中銀(ECB)ホームページ

https://www.ecb.europa.eu/stats/macroeconomic_and_sectoral/hicp/html/inflation.en.html

インフレ率が目標を上回っているのに、マイナス金利政策を継続しているECBの姿勢に私は疑問を感じています。しかし、2018年6月14日に開催されたECB金融政策理事会ではフォワードガイダンスを導入し、**利上げ時期を2019年夏以降**としているため、この変更がない限り、2019年の半分以上はマイナス金利のままということです。



ただし、今後もインフレ率が上昇し、インフレ目標から大きく乖離した場合、マーケットでは勝手に「金利の正常化」に向けたマイナス金利の解除を織り込みに行く形で利上げ時期の前倒し期待が高まるため、アメリカとユーロ圏との長期金利差が縮小に向かうことは十分に考えられます。

それとは別に、2018年に起きたアルゼンチンやトルコをはじめとする新興国危機が悪化したり、米中貿易戦争により中国経済が低迷した場合は、世界景気そのものが「リセッション入り」するリスクが台頭しますので、アメリカもユーロ圏も金利の正常化への動きを一旦止めざるをえません。

■ 2019年ドル・ユーロ相場予想まとめ

ドルを取り巻く環境は、

①新興国危機が拡大し、ドル高

②利上げ打ち止め感により上昇一服

この2つの相対する相場観の間を揺れ動く2019年になると予想します。

もし新興国危機が予想以上のスピードで拡大したり、中国の景気後退などが実現し、グローバルな規模の景気低迷があれば、米株式市場が崩れない限り、安全通貨としてドルが買われることになります。2018年夏以降は、「安全通貨としての円買い」が弱まってきている印象が強いこともあり、ここからのドル円のコアレンジとしては、105－115円±10円幅で考えています。

それとは逆に、アメリカが本気でドル安政策の導入に踏み切った場合、最初のターゲットとして、ドルインデックスの88台を予想します。

ドル取引をするうえでの注意事項としては、

- ・ トランプ大統領の貿易戦争に向けた次の一手
- ・ 利上げ打ち止め感に変化があるか？

- ・ 長期金利(米10年物国債利回り)が3%を超えてぐんぐん上がっていくのか？
- ・ 新興国危機が本格化するか？
- ・ 株式市場の動き

このあたりが気になります。

ユーロに関しては、とにかく

①イタリア情勢が悪化した場合は、ユーロ売りになると考えています。

②欧州統合の足並みが乱れるきっかけになるかもしれない欧州議会選挙の結果には、くれぐれも注意を払ってください。

2019年はヨーロッパで総選挙が続きます。イタリアだけでなく、欧州選挙年となりそうで、非常に嫌な予感がしています。最悪の展開としては、欧州議会選挙で、反移民／難民支持政党やポピュリズム政党の躍進が見られ、メルケル独首相やマクロン仏大統領が進めようとしている「欧州統合」への歩みがストップし、欧州政治危機が発覚することです。その場合は、ユーロ／ドルは1.1000を抜ける展開も覚悟しておきたいと思います。

おすすめの情報収集方法と 質の高い情報源の 見極め方



FXを始めるとき、ほとんどの人はテクニカルを使って取引をスタートします。やはり目で見て理解できるテクニカルは、ありがたいですね。しかし、テクニカルと同じだけ重要なのがファンダメンタルズです。

テクニカルだけで相場と対峙する場合、どうしてもテクニカルだけで説明できない動きにぶつかります。例を挙げれば、中銀総裁や政治家の発言などです。このようなヘッドラインによる動きは、短期的な影響だけなのか？中長期のトレンドが変わるきっかけとなるのか？自分で判断する力がない場合、自分の収益を大きく左右します。

もしここで、ファンダメンタルズ分析ができれば、点（目の前の材料）がどんどん線につながっていくのか、あるいは一過性のノイズなのか、マーケットというものをいろいろな角度から眺められるようになります。自分の戦略に自信がつくことは、間違いありません。

■ 私の情報収集方法

私はファンダメンタルズをメインにトレードしておりますが、情報収集の際には「**経済(経済指標)、金融政策、政治、要人発言**」をメインに調べます。FXの情報はほぼ100%英語ですが、幸いにも私はロンドンに住んでおりますので、この点はまったく問題ありません。しかし、英語ができれば誰でもFXで儲かるかと聞かれれば、答えはNOです。

最大の理由を挙げるのなら、**情報は「量より質」**ですので、**情報の質により会得できる内容が違い、それが自分が描くストラテジーの正確さに影響するためです**。つまり、同じ時間を使うのなら、質の高い情報と接することをお勧めします。

私は毎朝起きた直後と寝る前それぞれ90分ずつ情報収集に充てています。そして日中も暇さえあれば情報をチェックしています。マーケットが静かなときは、12時間くらい情報収集に時間を割くこともあります。

■ 質のよい情報とは？

私が一番多く使うツールは、「Twitter」です。これをお読みの皆さんも使っていらっしゃる方は多いと思いますが、Twitterでの情報収集のコツは、「質のよい情報を流す人をフォローする」。これに尽きるでしょう。ここでいう「質のよい情報」というのは、速効性と正確性に加え、うわべだけの事実確認ではなく、マーケットへの造詣が深く分析力が高い人を指しています。

次に使うツールは、ロイターやFT紙のような報道を読むことです。先日も日本の個人投資家の方から質問を受けたのですが、海外では「ニュースは有料」です。日本は過剰サービス？社会ですので、なんでも無料という認識があるかもしれませんが、こちらでは対価を支払って情報を取得するのが普通です。

その中で現在でも完全に無料で情報提供してくれるのが、①ロイター ②英ガーディアン紙。もし情報にお金を使いたくないのであれば、この2つをお勧めします。

次は、週／月に一定回数の記事だけ無料ですが、それ以上読みたい場合は有料となるのが、①ブルーンバーク ②英FT紙 ③英エコノミスト誌 ④日経新聞です。

そして、完全に有料化したのが、①米WSJ紙 ②英タイムズ紙 ③英テレグラフ紙です。

■ おすすめのTwitterアカウント

最後になりますが、日本語で読めて頼りになるTwitterアカウントをまとめましたので、参考にしてください。

岡三マン ([@okasanman](#))

とにかくtweet数が多いため、時々マーケットに関係ない呟きもあるが、やはり分野を問わず情報量は多く助かっている。

グローバルインフォ FXi24 ([@FXi24_dzh](#))

Twitterでは、ヘッドラインのみ配信。詳しい内容は、提携しているFX会社から閲覧可能。

SBIリクイディティ・マーケット ([@SBILM](#))

経済指標の発表時に参考にしている人が多く、とにかく情報発信が早い。

【免責事項】

本レポートは情報の共有を目的としており、投資その他の行動を助言・勧誘し、特定企業や特定銘柄等を推奨するものではありません。

本レポートの情報の利用はもとより、FX等の投資はご自身の判断とリスク負担の元で行っていただきますようお願いいたします。

また、本レポートに記述してある情報の正確性については万全を期しておりますが、内容を保証するものではありません。

したがって、記載が不正確であったことにより生じたいかなる障害に関しても、一切の責任を負わないものとします。

■著作権についてのご注意

下記の行為は法律で禁じられております。

- ①本書を知人など第三者に転送する行為
- ②本書の印刷物を知人など第三者に配布する行為
- ③本書の内容を引用、転載、複製し第三者が閲覧可能な状態にする行為

本書の無料プレゼントは、プレゼント対象者に本書の著作権を譲渡するものではありません。著作権は日本国著作権法および国際条約により保護されています。

著作権の対象となっている本書を、またはその一部を、無断で転載、複製、引用、転送、再配布することはすべて法律で禁じられています。そのような行為はもれなく、刑事罰の対象、または民事上の損害賠償請求の対象となります。